|登録日

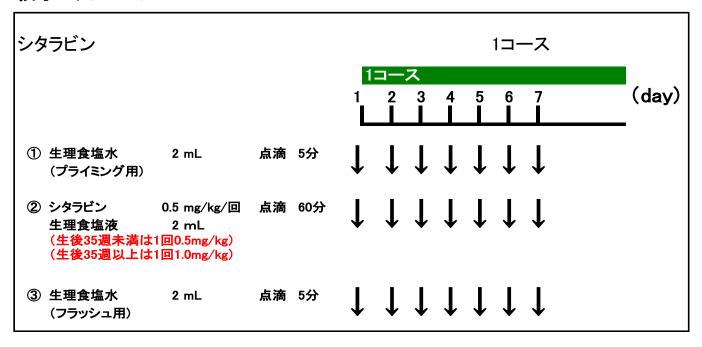
2015/12/3

レジメン名 TAM001

腫瘍名 一過性骨髄異常増殖症

申請医師一小児科

投与スケジュール



注意事項

•適応

一過性骨髄性異常増殖症(Transient Abnormal Myelopoiesis:TAM)の患児(新生児が対象)

WBC>10万/μLのTAM患者で診断後早期(10日以内)に少量シタラビンを開始することで1年生存率が改善。

WBC < 10万/µLの場合、注意深く経過観察を行うが、直接ビリルビンの上昇、胸水、腹水、

心のう水貯留、全身浮腫など予後不良と関連する臨床症状が出現した場合は、治療対象となる。

投与目的は腫瘍量を減弱させ、臓器障害を緩和すること。

- ・好中球減少期間の中央値:0~14日
- ・WBC≦2万/µLになったら、投与を一旦中止する。
- •支持療法

高サイトカイン血症にはステロイド療法

強度の出血にはFFPの大量投与など

•悪心嘔吐対策

催吐リスク:低 通常はステロイド投与(デキサート6.6mg→小児では体重に合わせて用量を変更する)

溶解液用量と投与後のフラッシュ用の溶液用量は、患者に応じて変動するため、その都度用量を確認する。

参考文献

1)キロサイド添付文書2014年12月改訂版

2) 菊池 陽, TAMの臨床, Jpn. J. Obstet. Gynecol. Neonatal Hematol., 22, 25-29 (2013).